

煎茶用新品種「さえみどり」について

根角厚司・武田善行・和田光正 (野菜・茶業試験場久留米支場)

Atsushi NESUMI, Yoshiyuki TAKEDA and Kosei WADA :
A Newly Registered Tea Cultivar "Saemidori" Suitable for Green Tea

農林水産省野菜・茶業試験場久留米支場 (枕崎) で育成された「枕崎9号」が、煎茶用新品種茶農林40号「さえみどり」として登録されたので報告する。

本品種育成に当たって多大なご協力をいただいた関係機関の各位に深く謝意を表する。

1. 来歴及び育成経過

「さえみどり」は1969年に茶業試験場枕崎支場 (現野菜・茶業試験場久留米支場) において品質良好で栽培特性の優れた「やぶきた」を母親に、早生で品質が優良な「あさつゆ」を父親として交配を行い、選抜育成された品種である。交配後、個体選抜、苗床選抜、系統比較試験、地域適応性検定試験及び裂傷型凍害に対する特性検定試験を行った結果、収量性、品質ともに優れた早生品種であることが認められたため1990年6月に農林登録された。

2. 特性の概要

樹姿は中間型で分枝性が良く、発根性も優れ、成園化後の生育が良好である。

早晩性は中生の「やぶきた」より萌芽期、摘採期とも約4日早い早生である。

耐寒性はやや強で「やぶきた」と同程度であるが、早生品種であるため休眠覚醒が早く晩霜による被害を受けやすい。耐病性は炭そ病には中、輪斑病には「やぶきた」同様に弱である。

収量は幼木期よりも成木期になるに従って増加が著しく多収である。しかし晩霜害を受けると減収が著しい。

煎茶品質は極めて良好で、特に外観では色沢が鮮緑色で優れ、内質では香気が「やぶきた」と異なる芳香があり、滋味ともに優れている。

3. 栽培適地

早生品種であることから晩霜による被害を受けやすいため、南九州・四国及び東海・近畿の晩霜害を受けにくい暖地が栽培適地と思われる。

第1表 「さえみどり」の栽培特性 (育成地)

品 種 名	萌芽期	樹 姿	挿 木		耐病性	
			発根性	耐寒性	炭そ病	輪斑病
さえみどり	-4	中 間	良	やや強	中	弱
やぶきた	0	やや直	良	やや強	弱	弱
ゆたかみどり	-6	中 間	良	やや強	強	中

注) 萌芽期は「やぶきた」の萌芽期との早晩の差

4. 栽培上の注意

苗床での活着や発根性は良いが、移植直後に欠株が生じやすく、幼木期間の生育があまり旺盛でないため苗床で十分に大きくした健苗を定植する必要がある。また休眠覚醒が早く晩霜害を受けやすいので、防霜対策は十分行う必要がある。

5. 命名の由来

新葉の色と煎茶の色沢が特に鮮緑で優れることによる。

第2表 一番茶煎茶品質 (育成地)

品 種 名	年 度	樹 形	形 状	色 沢	香 気	水 色	滋 味	合 計
さえみどり	58	6	17.5	9.0	7.8	7.8	42.1	
	61	9	8.0	8.5	8.5	8.3	8.7	42.0
	62	10	9.0	8.6	9.0	7.5	7.8	41.9
やぶきた	58	6	15.0	7.0	8.5	7.5	38.0	
	61	9	8.5	8.2	9.0	8.5	9.0	43.2
	62	10	8.0	9.0	8.8	8.5	8.5	42.8
ゆたかみどり	58	6	13.5	5.3	5.5	4.5	28.8	
	61	9	7.8	7.9	7.3	7.7	6.8	37.5
	62	10	16.4	8.4	8.2	7.5	40.5	

第3表 「さえみどり」の系選試験地における成績

場 所	萌 芽 期	摘 採 期	収 量 品 質			
			一 番 茶	夏 茶	一 番 茶	夏 茶
三重	-3.0	-2.5	87	126	97	103
京都	-2.7	+2.0	180	176	110	131
高知	-6.0	-2.0	96	139	92	105
熊本	-5.0	-0.7	85	120	102	-

注) 萌芽期・摘採期は「やぶきた」の萌芽期・摘採期との早晩の差。収量・品質は各場所の「やぶきた」を100としたときの比率